

news: 劇団一揆「千一夜物語」本公演が間近です!

2006年8月15日、北海道大学クラーク会館にて行われましたイベント「耳に残るはHURPの音色vol.2『小国』でいっしょ。」で協力してくれた学生さんの関わる劇団一揆。今回「戦争と平和をめぐる三つの物語」を上演されるとのことです。

札幌付近にお住まいの方、ぜひお問い合わせのうえ、足をお運びください!

「千一夜物語 千の出会い、ひとつの愛」
作・演出 橋田志乃舞

■日時
3月10日(土) 14:00~19:00~
11日(日) 14:00~
※開場はいずれも30分前です。

■料金
・一般 1800円
・ペア(2枚組) 3200円
・ファンクラブ・高校生以下・65歳以上 1500円
・当日(一律) 2300円 ■会場
BLOCH(ブロック)
札幌市中央区北3条東5丁目5 岩佐ビル1F
(地下鉄東西線バスセンター前駅8番出口より徒歩8分、JR・地下鉄さっぽろ駅21番出口より徒歩10分)
地図は
http://www1.plala.or.jp/ikkis/bloch_map.gif

劇団一揆ホームページ
<http://www1.plala.or.jp/ikkis/>

news: 会員からの声

「フランス 憲法に死刑禁止を明記」のニュースに接して

「自由と人権の国」を標榜するフランスが死刑を廃止したのは意外に遅く、社会党のミッテラン政権が誕生した1981年のことであった。刑法を書き換える形で死刑廃止は実現されたのだが、刑法改正法案を起草し議院に提出したのは、法務大臣ロベール・バダンテールである。

当時のフランスの世論は死刑存置派が多数を占めていたが、現在では過半数の人が死刑廃止に賛成している。2006年度始めの所信表明演説でシラク大統領が予告した通り、2007年2月19日、パスカル・クレマン法務大臣のもと、憲法に次のように死刑禁止を明記する

に至った。「何人たりとも死刑に処することは出来ない(Nul ne peut pas être condamné à la peine de mort)」

国家のあり方を規定する憲法に死刑禁止を明記することによって、フランスという国家が人間と社会をどのようなものと考えているかを明言したといえる。

バダンテールによれば、死刑という行為そのものが野蛮だという。それはスケープゴートの一種であり、不安の大きな社会こそが死刑の存続を求めるのだ、と。

日本では、厳罰化の議論こそあれ、死刑廃止の議論への関心は高くない。裁判員制度を前に、今から死刑の是非について考えてみてはどうか。(N)

みなさま、あたたかい日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。この冬東京では観測史上初めて雪が降らなかったのだそうですが、わたしたちが札幌を訪れた時、数日前までは雪がほとんどなかったんですよ、という話を何度か耳にしました。さて、運良く雪の現場を撮影することができたHURPですが、「白鳥事件」プロジェクトの今後の予定として、3月中旬から脚本(ナレーション案)づくりに入ります。また、4月には、小さなイベントを行いたいと考えています。そして5月には脚本を完成させ、追加取材・調査の期間を経て、9月には完成させたいと思います。今までこのプロジェクトについては、ブログで進行状況を少しご報告していただけたのですが、ようやくホームページのほうに情報をアップできる準備が整いつつあります。3月中にはご案内できる予定ですので、ぜひのぞいてみてください。それでは、また! (彩音)

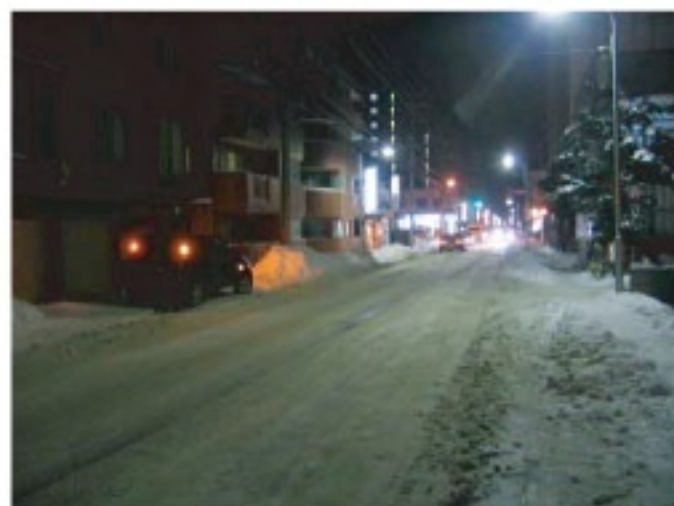
特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HURP: ハーブ)
Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HURP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231
e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>

賛・助・会・員・へ・の・お・知・ら・せ

ハーブ通信 2007 2月号 第9号

<http://www.hurp.info/>



「白鳥事件」現地調査 第二弾の報告です。

どうしても撮りたかった、事件と同じ季節の現場付近の様子。左手に止まっている車(ランプが光っています)のあたりが、白鳥事件の倒れていたところだと思われます。



右は、記録映画より「事件現場」。逆方向からの風景です。

1月27日(土)―28日(日)、ハーブ有志はふたたび、札幌に行きました。前回(2006年初夏)会えなかった人に会うこと、時間の関係で集めきれなかった資料を入手すること、また、映像化するならやはり冬の現場を撮影しなければ! ということで急遽決まったこの企画でしたが、6名が参加しました。

11時35分に札幌に到着。まず札幌学院大学の図書館に伺い、図書館長のKYさん、Kさんのご協力を得て資料収集。また、杉之原舜一弁護士が晩年寄附された蔵書の目録を見せて頂きました。白鳥事件、芦別事件などを担当されていた杉之原先生が、どのようなことに関心を持ちその思想と理論を確立されていったのかの一端を垣間見ることのできる、興味深い資料です。

その後、歩いて北海道立図書館に移動。今回は、裁判の動きに沿って新聞をチェックしました。裁判の結果などがまずニュースとして報道されると、次の日から2日後に社説が載り、そのまた数日後に読者投稿、漫画のネタになったりしているという法則にのっとって、最初のニュースから一週間ほどの新聞を手分けして探しました。



そして、日が暮れ始めた頃、撮影班のみ一足先に事件現場に移動。

←北海道立図書館の入り口

撮影班から...

冬の「現場」に行きました。17時頃なので事件時刻の19時にはまだ早いのですが、夜の「現場」撮影のためビデオを構えていたとき、まったくはからずも、雪の道をヨタヨタと進む自転車が続けて2台も通ってくれたのです。

しっかり撮影させてもらいましたが、自転車は雪にかなり足をとられており、両手でハンドルをつかんで道路を確認し続けないととてもマトモに走れないことがよくわかります。現在より道路も自転車も良くない当時、この状態で正確に発砲して転ばずに逃げたりできるのかな、と疑義を抱かせる状況でした。(T橋)

この事件現場で、札幌の会員Gさんと合流しました。映像関係の仕事をしているGさん、映像は夕暮れ時と暗くなってからと、両方撮っておいたほうがいいですよ、と教えて頂いたのに、到着時はすでにすっかり日が暮れてしまっていました。しかし、夏に訪れたときとはまったく違う風景に、やはり撮りに来てよかったという思いをかみしめながら、急いでビデオを構える撮影班でした。

その後、ほかの札幌の会員の方々と合流して、お話をつつきながら親睦を深めることができました。



歴史的資料を大量発見！！

1月28日、HuRPの白鳥事件プロジェクトチームは、村上国治さんを守る組織の専従だった白鳥幸子さんを訪ねました。

白鳥幸子さんは私たちをアパートの一室に招き入れてくれました。私たちが足

を踏み入れると、そこには古い資料が山積みされていました。村上国治さんの再審請求が認められずに、その運動が終結して以降、つまり約30年前から、運動の機関紙、ニュース、現地調査のしおり、等々を白鳥幸子さんが保管してくれていたのです。

その部屋には、獄中の村上国治さんに対して全国の支援者から送られた激励の手紙や差し入れ（本など）、運動を広げようと当時作られた様々なグッズ（手ぬぐい、湯飲みなど）も数多く残されていました。白鳥幸子さんは何とかこれらの資料を後世の残そうと考え、こつこつとその整理をしてこられたのです。冤罪事件として有名な松川事件の資料は福島大学が保存しており、白鳥幸子さんはその見学にも行かれたそうです。

ぜひ白鳥幸子さんと共同して、これらの資料を保管・整理し、村上国治を守るたたかひの成果と教訓を社会に広げていきたいと思ひます。

(H・O)



獄中で村上さんが手にしていた書籍、支援者の送った手紙など。

日曜日の朝から、私たちをあたたかく迎えてくださった白鳥幸子さん。

事件が札幌高裁に係ったあたりから、講演を聞きにいかれたことをきっかけに、村上さんの無実を確信した白鳥さんが、運動をひろげていくためにどのように考え、活動されていたのかなど、1時間ほどお話を聞かせて頂きました。その模様はあらためてレポートしたいと思います。白鳥幸子さん、どうもありがとうございました！

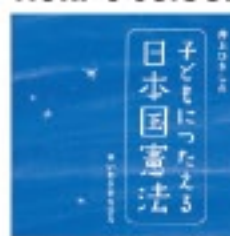
その後、小樽まで足をのぼし、海の幸を堪能してから、飛行場に向かった私たち。短い滞在でしたが、大きな出会いと成果があり、とても有意義な二日間となりました。



アパートの前で、白鳥幸子さんと一緒に。

●日本国憲法公布60周年企画●

「ブックマークの似合う本」 HuRP's selection vol.6



『井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法』

井上ひさし 著
いわさきちひろ 絵

講談社
2006年7月発行
定価 1000円（税込）

「憲法に関する本を紹介して欲しい」…

そう頼まれたとき、どうしようかと思ひました。私は憲法は資格試験のための勉強はしましたが、憲法に関する本はまともに読んだことがないのです。さんざん迷ったあげく、インターネットで「子ども 憲法」という単語で検索しました。子ども向けの本なら、私にも読めるだろうと考えたからです。

そうしたらありました。タイトルも『井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法』とダイレクトです。早速、図書館で借りました。

本は「絵本 憲法のこころ」と「お話 憲法って、つまりこういうこと」の2部構成です。「絵本～」は、著者が「これだけは読んでおいてほしい」という憲法の前文と9条を、小学生にもわかるような易しい言葉で書いてあります。それは、ただ簡単な文章にしているだけではなく、著者の憲法に対する特別な思いが文章に込められています。いわさきちひろさん（わたしは、子どもの頃何かの絵本で見てとても印象に残っています）の挿絵と共に、それが伝わってきます。

「お話～」は、著者が小学生向けに憲法を説明した連載をまとめたものです。こちらは、「絵本～」よりももう少し具体的に憲法の考え方などを説いています。「憲法は“この国のかたち”である」にはじまり、「憲法は人類の歴史からの私たちへの贈り物」としめくくられています。

おそらく、これを読んだ人は「戦争は絶対にしてはいけないんだ」という憲法の理念をふまえた著者の気持ちが伝わってくるでしょう。難しい前文がわかりやすく書かれているという点では、大人にも薦められる本です。（わたしが選んだ言い訳ではありませんが）

すぐに読み終えることができるので、ブックマークは直接は必要ありませんが、好きなページ、好きな絵の所に挿んでおくといいと思ひます（わたしなら、13～14ページ）。（T本）

人権・平和をめぐる主な動向

2007.1.10～2.16

人権 Human Rights

「離婚後300日以内に誕生した子は前夫の子」？ ■2月15日、民法772条の問題点を検討しようと、超党派の国会議員による勉強会が開催された。「それでもボクはやってない」 ■周防正行監督の映画「それでもボクはやってない」が絶賛上映中。「十人の真犯人を逃すとも一人の無辜（むご）を罰するなかれ」

<http://www.soreboku.jp/index.html>
厚労大臣発言に抗議 ■「女性は産む機械」という厚生労働大臣の発言に対して抗議相次ぐ。野党も徹底追及。人権ライブラリーがパネル展示 ■人権ライブラリー（財団法人 人権教育啓発推進センター、東京港区）が人権関係パネルを展示している。詳細は http://www.jinken.or.jp/library/library_tonji_0701.html

各国の人権状況の報告書 ■1月11日 国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチが年次報告 (<http://hrw.org/wr2k7/index.htm>)、17日には米人権団体「フリーダムハウス」が年次報告書を公表した。

平和 Peace

6カ国協議、合意成立 ■2月13日、北朝鮮の核廃棄問題についての6カ国協議で合意成立。

エチオピア・エリトリアPKOを延長 ■1月30日、国連安保理はエチオピア・エリトリア間の停戦を監視する平和維持活動（PKO）を延長することを決めた。

浦部理事長の講義をインターネット配信 ■HuRP理事長である浦部法穂教授の憲法講義のインターネット配信が始まった。無料体験受講できる。
<http://www.jicl.jp/online/>

日本国際ボランティアセンター、イラク増派に懸念 ■米・ブッシュ大統領のイラク増派政策に対して、イラク支援に携わるNGOの日本国際ボランティアセンター（JVC）が懸念を表明した。

九条の会の活動の映像を配信 ■九条の会を記録する会（映像ドキュメント研究会）が映像のネット配信をはじめた。<http://survival.org/qjo.html>



カラダに平和を9 —自炊のスズメ—

にんじんのベーコン巻き

前回は、れんこんの脇役だったにんじんが、今回の主役です。私は「にんじんって、日保ちするからまだ大丈夫」と冷蔵庫に置きっぱなしにして黒くしてしまったり、芽を出させてしまったことがあります。たしかに、煮物にすればたくさん食べられますが、さすがに飽きてきてしまいます（私の料理の腕のせいもありますが……）。これは、にんじんを悪くさせないために、モリモリ食べられるメニューです。

【材料】にんじん、ベーコン、つまようじ
【手順】
1 フライパンで（使う鍋の数をケチっているだけです）湯を沸かし、1センチ位（太

- め）の角切りに切ったにんじんを湯通しする。
- 2 にんじんをベーコンを巻いてつまようじでとめる。
- 3 熱したフライパンに油を敷き、炒める。
- 4 味付けは、ベーコンが強いので少なめに。

ベーコンを豚肉の薄切りにして、にんじんと一緒に湯通しして調理すると、さらにヘルシーです。にんじんはさっと湯通しして「ゴリゴリ」を残すと、食べて「ああ、カラダにいい～」と自己満足できることうけあいですよ。

(T本)

ベーコンは「カリカリ」で。

